

## 製品に関する取り組み

# 資源の有効活用

Hondaは、「資源と廃棄におけるリスクゼロ化」をめざし、製品の開発から廃棄に至るライフサイクル全体を見据えて、3Rを推進しています。

## 開発段階での取り組み

### 3R 事前評価システム

Hondaでは、二輪車は1992年から、四輪車は2001年から、新規開発する機種ごとに「3R 事前評価システム」に基づいて3R性を評価し、その向上に努めています。

### リデュース設計

製品のボディ骨格、エンジン、ボルトなどすべての部品について、構造や材料を工夫することで、小型化、軽量化を図っています。

例えば、軽量化に向けたリデュース設計として、2013年度に発売した「N-WGN」より、肉厚の薄いバンパーを採用しました。バンパー材料の高剛性化と高流動化、および製造技術の進化により平均肉厚3.0mmの従来仕様バンパーを約20%軽



国内はN-WGNから適用拡大



海外は2016年モデルのシビックからグローバル展開

量化、樹脂使用量を削減しました。

国内ではN-WGN以降の新機種から順次適用拡大中。海外では2016年モデルのシビックからグローバル展開を開始。全世界展開を図ることで、さらなる材料の削減に寄与します。

### リユース・リサイクル設計

リサイクル性やメンテナンス性に配慮した構造設計、リサイクルしやすい材料や再生樹脂の使用、樹脂・ゴム部品の材質表示などに取り組んでいます。四輪車では、インナーウェザーstripp、インパネ表皮など、多岐にわたる内外装部品にリサイクルしやすい材料を使用するとともに、エアコンダクトは、再生材の利用を可能にしています。さらに、リサイクルを考慮し、樹脂・ゴム材料には可能な限り材質表示を行っています。

こうした取り組みの結果、2015年度に発売したすべての新型車、モデルチェンジ車におけるリサイクル可能率<sup>※1</sup>は、四輪車90%以上、二輪車95%以上となっており、汎用製品も使用部材のリカバリー可能率<sup>※2</sup>95%以上を継続しています。

※1 一般社団法人日本自動車工業会（自工会）「新型車のリサイクル可能率の定義と算出方法のガイドライン」による指標。

※2 リサイクル可能率に熱エネルギー回収分を含んだ値。ISO22628自動車の「リサイクル可能率」などの算出方法に準じる。

### 化学物質の削減

環境に悪影響を及ぼすとされる重金属4物質（鉛、水銀、六価クロム、カドミウム）の削減を進めています。国内の四輪車では、2015年度に発売したすべての新型車、モデルチェンジ車で、コンビネーションメーターにおいても水銀を使用しないものを採用。自主的に水銀廃止に取り組んでいます。



## 製品に関する取り組み

### 使用段階での取り組み

#### 使用済み部品のリサイクル

修理、交換などで発生する使用済み部品を全国の販売店などから回収し、リサイクルしています。2015年度は、使用済みバンパー約16万本を回収・リサイクルしました。回収したバンパーは再生し、「フリード」のスプラッシュガードなどに使用しています。

また、使用済みトルクコンバーターの回収・再生(リマン)、ハイブリッド車用駆動用バッテリーの回収・リサイクルを含め、今後も使用済み部品のリサイクルを継続していきます。

#### 使用済みバンパーリサイクルの流れ



回収した使用済みバンパー



粉碎後のバンパー



再生樹脂ペレット



フリードのスプラッシュガードに使用

### 廃棄段階での取り組み

#### 四輪車の取り組み

自動車メーカーは、「使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)」に則り、大気放出するとオゾン層破壊や地球温暖化に影響し、エアコンの冷媒として使われる「フロン類」、爆発性がある処理が難しい「エアバッグ類」、使用済み自動車から有用資源を回収したあとに残る「シュレッダーダスト(ASR)」の3品目を引き取り、処理する責任があります。

2015年度、Honda車のフロン類の引取り台数は約45万台(前年比-2.0%)、エアバッグ類の引取り台数は約41万台(前年比+0.4%)、また使用済自動車処理の最終工程であるASRの引取り台数は約49万台(前年比-2.6%)でした。ガス発生器の再資源化率は93.2%、ASRの再資源化率は97.2%であり主務省令で定められた再資源化率(ガス発生器85%以上、ASR2015年度70%以上)をそれぞれ達成しています。再資源化等に要した費用の総額が48.3億円であり、払渡しを受けた再資源化等預託金の総額は55.9億円でした。

#### 二輪車の取り組み

Hondaは、国内二輪車メーカーおよび参加二輪車輸入事業者と協力し、「二輪車リサイクル自主取り組み」を2004年10月から実施しています。これは、二輪車業界各社が関係販売会社などの協力のもと世界に先駆けて開始した使用済み二輪車処理のセーフティネットで、廃棄される二輪車を販売会社や指

定引き取り窓口で無料で引き取り、リサイクル施設で適正にリサイクル処理するものです。

指定引き取り窓口で引き取られた廃棄二輪車のうちHonda製品は、2015年度1,040台で全引き取り台数に占める割合は61.9%でした。また、Honda製品のリサイクル率は、重量ベースで96.3%となり、「2015年度までにリサイクル率95%」という目標を達成しています。

※再資源化施設における処理実績から算出。

